

スマートライフ推進協創プロジェクトにおける委員からの意見及び対応状況

(現状評価 凡例) A：取り組んでいる B：あまり出来ていない C：出来ていない

	意見	対応状況	現状評価
1	<p>新エネルギーは、地域貢献という面からも重要であり、必要な事業である。「再生可能エネルギー等導入推進基金事業（グリーンニューディール基金）をうまく活用して、地域での一層の新エネルギー導入促進につなげてほしい。</p>	<p>(現状) 県は、平成 26 年度から平成 28 年度までの 3 年間に於いて、環境省から交付決定を受けた 15.7 億円を原資として、「三重県再生可能エネルギー等導入推進基金」を造成し、県、市町及び民間事業者が計画する、災害対策本部機能を担う施設や指定避難所となる施設等に太陽光発電などの再生可能エネルギー等を導入する事業（「再生可能エネルギー等導入推進基金事業」）を支援することとしています。 平成 26 年度は 6 市町が行う 11 事業を支援しています。平成 27 年度については、10 市町 11 事業、民間事業者 3 事業を支援するとともに、県においても 2 事業を実施する予定です。</p> <p>(今後の取組) 本基金事業の活用により、地域資源を活用した災害時にも強い分散型電源として太陽光発電や蓄電池などの導入を進め、地域における新エネルギーの導入を一層促進します。</p>	A

	意見	対応状況	現状評価
2	<p>東京オリンピック開催に向けて「水素」が注目されている。余剰電力を水素に変えて貯蔵する話なども聞く。すぐにビジネスという話ではないかもしれないが、検討してはどうか。</p>	<p>(現状)</p> <p>工業研究所内の燃料電池研究センターでは、持ち運びできる電源として利用可能な燃料電池の開発を支援するため、大学や中小企業と共同で、取扱いが容易なエタノールを燃料として水素を発生させる小型の改質器を試作し、そこから発生するガスの成分分析を行うとともに、燃料電池と改質器のマッチング試験を実施しています。</p> <p>また、燃料電池関連技術に関する研究会を開催し、燃料電池分野への参入を検討している中小企業等へ、最新の市場や技術についての情報提供を行っています。</p> <p>水素インフラの整備については、中部経済産業局が主催する「中部FCV水素供給インフラ整備推進会議」において情報収集するとともに、市町と連携して、移動式水素ステーションなどの適地情報の収集を行いました。</p> <p>(今後の取組)</p> <p>水素に関しては、既に実用化段階にある定置用燃料電池や、今後の普及が期待されている燃料電池自動車や燃料電池コージェネレーションシステムなど、水素エネルギーを利用する製品の普及が進みつつあります。このような水素を地域経済の活性化などまちづくりに結びつけ、新しいエネルギー社会の構築を図るため、大学、市町、経済団体などで構成する「みえ水素エネルギー社会研究会」を設置する予定です。</p>	A

	意見	対応状況	現状評価
3	<p>バイオナノセルロースには様々な特徴があり、これから可能性がある素材だと考えている。企業のニーズ等も踏まえて、今後、研究会で検討してほしい。</p>	<p>(現状)</p> <p>みえバイオリファイナリー研究会では、昨年度にバイオリファイナリー調査委託を実施し、三重県のポテンシャルを生かした連携テーマとして、「バイオマテリアル製造技術によるセルロースナノファイバー等の製造」など5つのテーマを抽出しました。</p> <p>特に、日本初の技術であるセルロースナノファイバーについては、セルロースナノファイバーを活用した高付加価値材料の開発に向け、国が進めるナノセルロースフォーラムに参画するなど国内外の情報収集に努めるとともに、県内企業や工業研究所などとプロジェクト化に向けた検討を開始しました。</p> <p>【バイオリファイナリー調査委託により抽出した連携テーマ】</p> <p>バイオマスのカスケード利用による医薬品等の高付加価値品の製造 前処理、糖化工程のコストダウンを図ったうえでのバイオエタノールの製造 バイオマテリアル製造技術によるセルロースナノファイバー等の製造 熱分解やガス化技術による重油代替としてのバイオオイルの製造 前処理、糖化工程を経て、発酵法によるバイオプラスチック原料およびバイオプラスチックの製造</p> <p>(今後の取組)</p> <p>セルロースナノファイバーはシーズ型のマテリアルであるため、技術シーズを有する企業とユーザー企業とのマッチングや新たな用途開発を支援するとともに、国内外の研究開発動向などの情報を収集しつつ、県内企業や大学と研究開発プロジェクト化に向けた検討を進めていきます。</p>	A

